

貝類

夢蛤

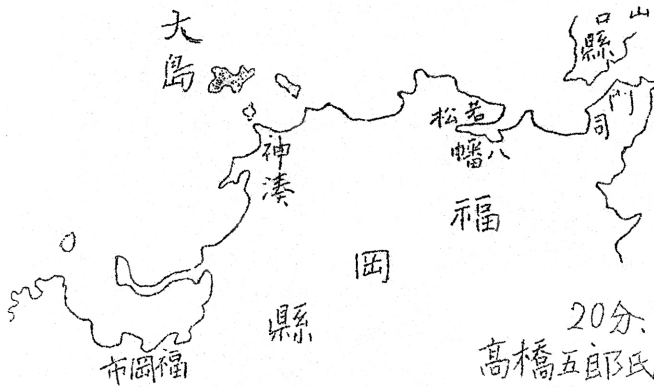
研究

第 34 號

恭賀	新年		
主張	芽生えを育成せよ	1
研究	館山湾に於けるイタヤガイの大発生と その生態並びに生物相 瀧 庸	2
	チクゴシジミの変異型 岡本正豊	7
	ムカデガヒの一生 黒田徳米	8
	ウミウシ類の採集と標本製作法 堀越増興	10
	蝸牛雑感 黒田徳米	15
	貝類異型の研究其 20 吉良哲明	18
傳記	梅村魁氏小傳 天野景從	21
新刊紹介		22
雜錄	フボガヒは2種である. 黒田徳米	23
	長者貝命名由來記 中上川小六郎	26
	筑前大島採集記 岡本正豊	30
隨筆	新長者貝優姿 天狗庵宗匠	33
談話室		35
貝界消息		38
附録	二枚貝屬類圖考 波部忠重	
編輯だまり		44

筑前大島採集記

岡本 正豊



10月16日(1948年)15時

20分、鹿児島本線博多発列車で

高橋五郎氏と出発、東郷驛で下車夕闇

迫る田中の道をバスに依らず歩いて神湊に

向ふ、十五夜の月皎々と輝くを仰ぎ、電産ストの爲暗黒となつた神湊到着、連絡依頼して置いたのだが神湊小学校の宿直室はがらんどいで人氣なく、さりとして英彦山のお宮とちがってだまって泊るわけにも行かず、已むを得ず附近に居住して居られる同校教官永島憲一氏を訪ね、来訪の意を告げたところ同氏宅に泊る事を勧めらるゝに至り、我々も同氏の好意に感謝し、ルンペン生活とはおよそ縁遠い暖いふとんにうづくまってぐっすり休んだ。

明くれば10月17日永島氏宅で朝食まで戴き、全く縁無き者を斯く迄歓待せられた事に深謝して同氏宅を辞し勇躍海岸へ向う、海岸には今夏彼のイタヤカヒ大漁の際採取せられた殻が山積せられていたが、夥多のイタヤカヒに混つて大きなヒアフギやアケカヒの死殻のあるのは愉快だつた、大島に渡る港に近づくに従つて海岸に打上げた微小貝は、共に上げられた石炭の小粒と共に段々其の數を増して来た、切符賣場に道具を預け、海岸の打上貝を採集する、キセワタ、カセンチドリ、ハナツトガヒ、キシウベツカフタマガヒ、ツメナリ、ミヤゴドリ、*Plesiothyreus* sp. シヤカスエモノガヒ、ウスカタビラ、シヅクガヒ、チヨノハナガヒ、カバサクラ等車堅いものが打上げられていた、船告の出船が17時なので、幾多の未練を残して同地を切上げ港に行く、"30トンの船ですから少々時化ても出ます"と聞いたが餘り頼りになる程大きな船ではない、併しこれでも渡船の轉覆したことは未だ嘗ってないそうだ、17時汽笛と共に神湊を離れる、勝島の陰から出ると愈々玄界の荒浪を西から受けて、船告は70度余り右に傾斜し波のしぶきは盛に舷を叩いたが、約40分にして大島北港にはいった、晝食を炊く場所を求めて中津宮に行つて見ると、折悪しくお祭りで神樂があがっており、室くじまであるといふ賑かさ、飯炊く場所もあらばこそ、やむなく飯盒と採集袋とをぶら下げて裏の山林へはいり込

< 夢蛤電子版 サンプルデータ >

んだ 本は主として落葉樹で、下葉やかづらの葉などについているツクシマイマイを數個、キウシウシロマイマイを一個並にゴボソマイマイ死殻を採集した。此處のツクシマイマイには、福岡附近では滅多に見られない暗孔の色帯だけを缺く1230型のものが二三あつたことは面白いと思う。又灌木の枝の1米半位の高さのところウスカハマイマイがクロマドボタルの幼虫に襲はれているのを目撃した。腹が減つては採集が出来ないので炊事をする心算で宿泊豫定地の小学校へ行く。此處の学校もお祭りの関係が藻抜けのから



あがり込んで炊事場の七輪を拜借し悠々と昼食。済んで大島の北海岸岩瀬に向ふ。岩瀬海岸附近の高地にある沖島遙拜所から遙か北方に淡く霞む沖島の影を眺め、目ぼしいすぐ裏にある山中にはいる。落葉の中で甚だ僅少ではあるがウラジオベツカフ、タカハシベツカフ (*Nipponochlamys takahashii* KURODA ETHABE (MS.)) ヒメベツカフ(?), ヤクシマシタラ等の微小種

とフリーデルマイマイ、ツクシマイマイ、ミゾシダギセル等を採集した。海岸に下る。丸い岩が多く、それ等にセルプラやウメボシノギンチヤク等が附着しており、イソニナ、クボガヒ、クマノコガヒ、イシダタミ、アヲガヒ、スソカケガヒ等江見附近の貝が多數居た。尚同地で産卵中と思しき軟体部の殻より大きな貝を採集し、キセワタだと思つていた所。後に肉を抜いて見た所タテジワミドリガヒであつた。その外には大なる收穫もなく、南海岸の宮崎方面に向ふ。海岸には近海で採取されたとと思われるイタヤガヒやツキヒガヒ、アサリ等の殻が四散していた。東側堤防先端の岩石礁に行つて見る。岩の凹みの水溜りにはケハダヒザラガヒ、スソカケガヒ、アマガヒ、イシダタミ、クロスヂムシロ、シカラマツ、ムラサキインコ、セミアサリ等。海中にはオホコシダカガンガラ、イソバセヲ等が附着して居たので若干採集した。海中の褐藻をとり附着しているハリハマツボチャツボ等の微小種も採集した。西側の渡船のつく棧橋代りになっている堤防に行つて見る。此方はあまりよい條件とは言ひ難く、僅に採集した褐藻を子供の持つていた洗面器を借り受けてチャブチャブやつて微小貝を一網打盡しノミニナ、ハナチヅサ、イハカハチヅサ、クダマキマツムシ、イボフトコロ、ハリハマツボ、チャツボ等を得たに止まつた。マカキと共に岩に附いていたケガキをとろうと努力し

< 夢蛤電子版 サンプルデータ >

たが思ふ様に行かず、やつの事でニ三採集し、うすぐらくなつたので採集を断念し、再び學校を訪れた、大島では電燈は自家発電をやつており、電産ストも何處吹く風、福岡市内で今尚ランプ生活の殘島と比べると甚だ贅澤である。宿直室にはその電燈がついているのに相変らず人氣なく、新聞配達の子供からすぐ前の長壁に校長の假住いのある事を聞き、夕食後校長宅を訪ねた所、小学校長は留守で、丁度焼酎をさしていた中学校長(小学校長と同居)と大島の宮總代とが我々を招じ入ル談合し、遂に此處でも中学校長の室に宿泊することになった、此の宮總代某氏、昼間我々が中津宮で飯盒と袋をぶらさげて山中にはいつて行く様子を見ていたものと見え、我々をルンペンと思つた由を語つたが、これにはいささか恐れいつた、夜半小学校長が帰宅せられた。

翌18日早朝起床、學校で米をどぎ、中津宮の山中で食事をすまして、山中にはいり発船まで一時間餘、同地の陸貝を求めたがコベソマイマイ、ヤマタニシツクソマイマイ等の死殻を認めた外、発船時時刻間際になつてミゾシタギセルを數個採集、此んなに乾燥していなかつたらと未練をのこして港へ急ぐ。風が強く8時港を離れるや否や忽ち東からの大波にもまれ、右舷は吃水線から上が1米程足らずとなり、東方に見える倉凍負が波に見えがくしつ神湊着、波が大きくて前日の夥しい打上貝もすっかり洗われて無くなり、採集出来る見込みもないので小憩の後、鉤川マロのカハザンセウガヒ類を採集して夕刻帰福した。

以上で私共の大島方面調査の概要の報告を終ります、意外に時間の余裕がなく、大湊月の此の日を選んだに拘らず充分な採集が出来ませんでした。併し筑前の大島は九州本島に近い関係からFaunaにこれといった特徴が見られませんでした、尚後日の考考の爲に交通について一寸附記します。

鹿児島本線赤間驛・神湊町間西日本鉄道バス 約40分 25円
一日 6往復

神湊・大島間 大島振興會汽船 約40分 35円

出港時刻 神湊 17時 17時 大島 8時 14時

採集記は皆様に喜ばれますからどしどし送つて下さい、我が家の裏山でも、前庭でも、瀨辺でも必ずしも遠方を望みません。